

コメント

## シンポジウムの総括 2



丹保憲仁(たんぼ のりひと)

1933年生れ。北海道大学大学院修士課程修了。現在北大工学部衛生工学科教授、工学博士。北海道地方都市計画審議会委員。著書「上水道(土木学会新土木体系シリーズ88巻)」「浄水の技術」「水道とトリハロメタン」他。

地球規模で様々な環境の致命的な劣化の現象が見られ、またより多くの面で問題の発生する兆しがあります。そのほとんどが、大量高速輸送を技術の中心にすえ、量的尺度での成長を社会の活力としてきた近代二〇〇年の社会構造が、地球規模で終りに近づいたことを示していると思います。

今日お話しいただいた、様々な地球の様相はまさに人間の生き方の変更を急速に求めているものです。単様・量的尺度・成長の社会から、多様・質的尺度・成熟した社会への早急な転換が必要です。近代、西欧の作った尺度での単様な社会が見直される必要があります。

地球の有様をいくらか計測しても解決にはなりません。なにがおこっているかを環境科学的に知ること以上に、近代における生活尺度を成熟社会における生活の形態に切り替えることが必要です。

環境の問題は人間の問題です。これを機に生活の工学を新しい軸で作っていくことを始めたいものです。